

おがみヒダのボックスプリーツスカートの作り方



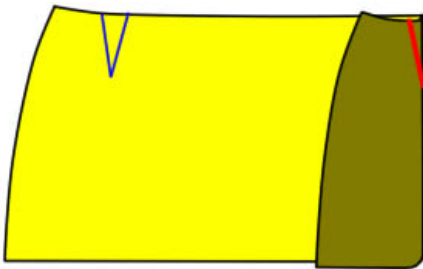
布の印のつけ方や  
接着芯の貼り方は  
縫う前の下準備で  
詳しく説明しているよ  
まだ見たことがない  
人は先に見てね!

→ 縫う前の下準備

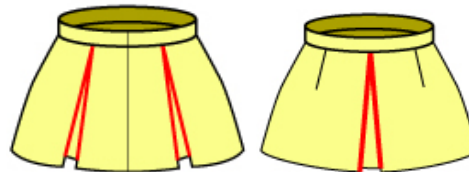
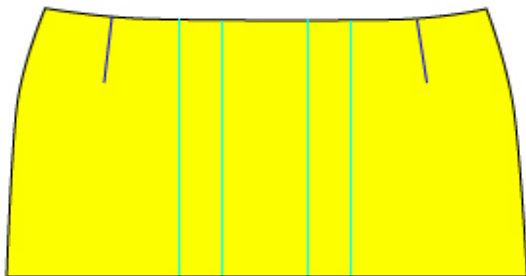
■ 表 ■ 裏 ■ 接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。  
型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。

前身頃1枚、後身頃2枚、ウエストベルト1枚を切ってください。  
ファスナーは、脇(ポケットをつけたい場合は後)につけます。

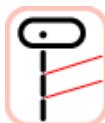
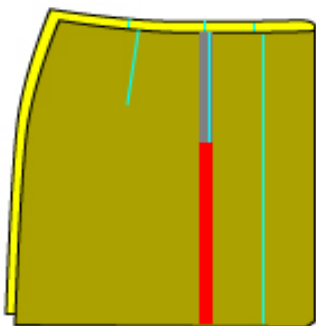
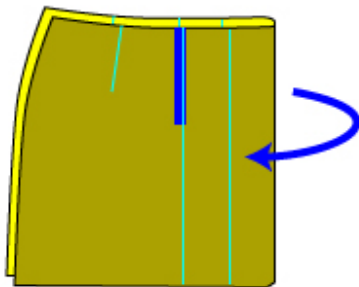


後身頃のダーツ(立体にするためのつまみ)を縫ってください。



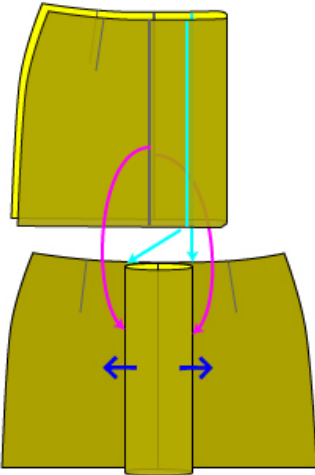
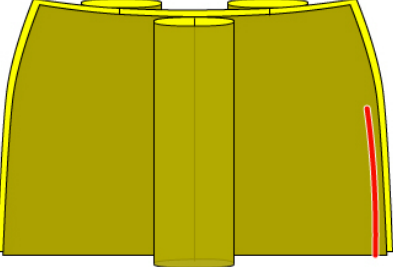

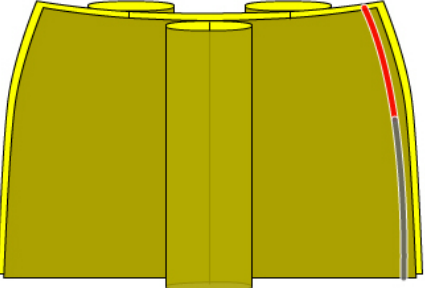


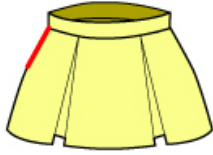

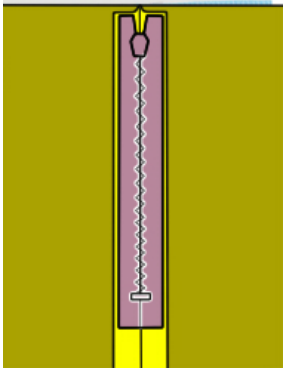
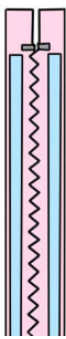
プリーツを折ってください。

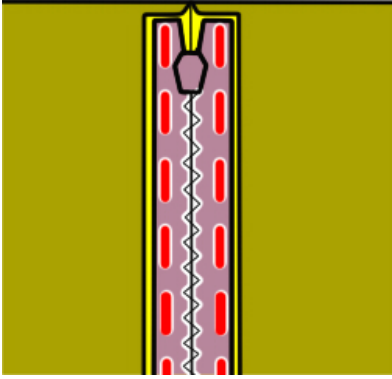
上の段の緑の所同士を合わせるように折ってください。  
そして上から10cm下位のところ(青の線)まで縫ってください。



この長さが  
ぬい目の長さ

縫い目の長さを大きくして赤い所を縫ってください。  
縫い目を大きくするのは、あとでほどこきやすくするためです。

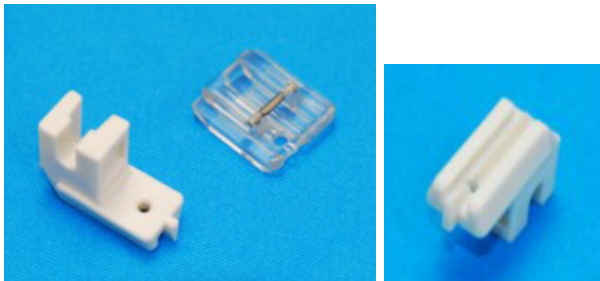
	<p>裏へひっくり返し、縫い合わせたところを基準に左右に広げます (図2)</p> <p>このとき、「<a href="#">ファッションライナー</a>」というスプレーをかけておくと、作った方がいいがお出かけで着たときに、すぐヒダが取れてくしゃくしゃというのが防げます。</p> <p>生地に湿る程度に振りかけてアイロンをかけると、プリーツが消えにくくなります。</p> <p>プリーツスカートを作る際の必須アイテムです。</p> <p>これをしていないと、大概の生地は着ているうちにヒダが消えてしまいます。</p>
	 <p>ファスナーを付けるために脇を1.5cmの幅で縫ってください。</p> <p>赤い部分が縫う部分。</p> <p>水色のところにファスナーをつけます。</p>
 <p> この長さが ぬい目の長さ</p>	  <p>この部分はあとでほどくので、ミシンの縫い目の長さを長くしてください。</p> <p>あきどまりの印をつけたところからファスナーをつける部分の縫い代を縫ってください。</p> <p>これを縫わないと縫いずれて左の図のようになってしまうので注意してください。</p>
	<p>縫ったら、縫い目の長さを2~2.5mmに戻ってください。</p> <p>アイロンで縫い代を左右に広げてください。</p> <p>.洋裁用語で割るといいます</p>
	 <p>あれば熱接着の両面テープをファスナーの表面に貼ってください。</p> <p>裏が見えるように生地を置いてください。</p> <p>熱接着の両面テープのはくり紙をはがしてください。</p> <p>左右に折った縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置いてください。</p> <p>アイロンで固定してください。</p>



熱接着の両面テープが無い場合  
なければ手縫いで2cmくらいの大きい縫い目でしつけ糸でファスナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫ってください。



糸きりハサミやリッパーで2番目に縫ったファスナーをつける部分の糸をほどいてください。

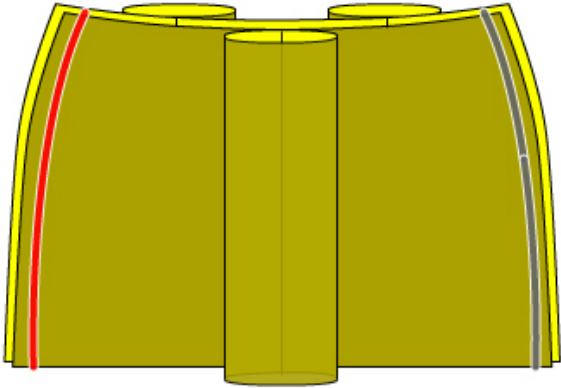
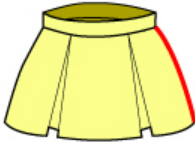
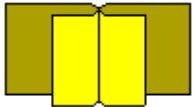
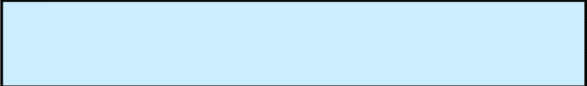
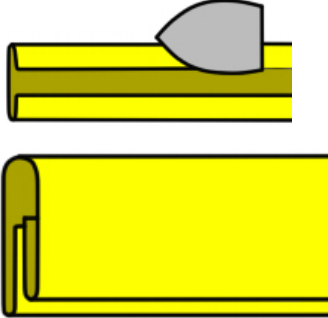
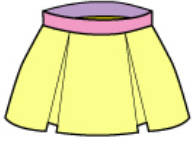
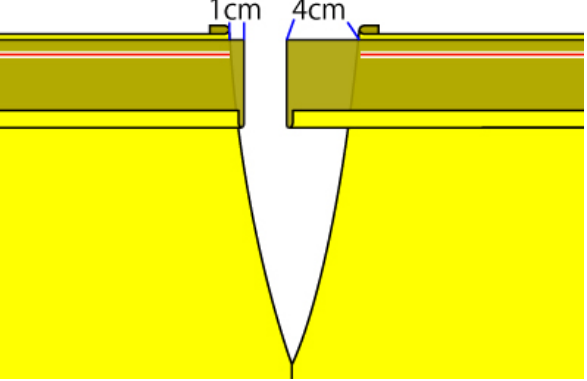

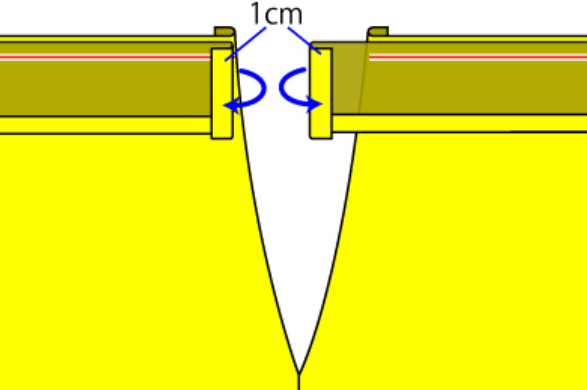


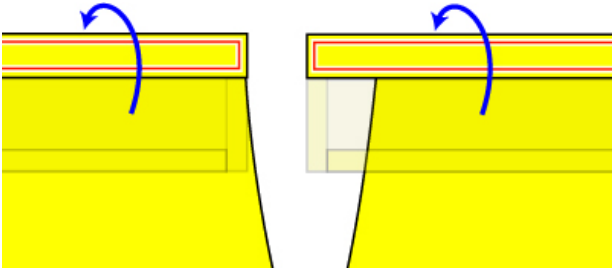
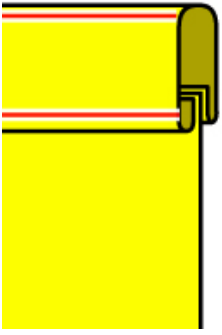
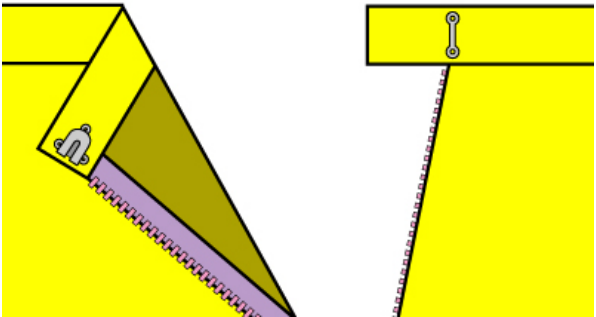
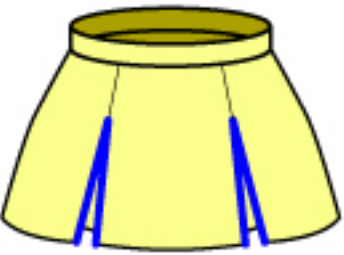

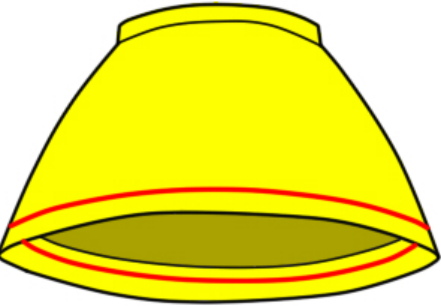

ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替えてください。  
このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。  
最近では付属のミシンものもあります。  
お洋服を作る人は1つ持っておくと便利です。  
左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用

コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っています。



この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができます  
そして開きどまりまで縫ってください。

	 <p>反対側の脇を縫ってください。</p>  <p>縫い代を左右に広げてください</p>
	<p>※ウエストベルトの裏全体に接着芯を貼るのを忘れずに。 芯がないとへろへろした仕上がりになります。</p>
	 <p>ウエストベルトはあらかじめアイロンで縫い代を裏側に折り、さらに半分に折り目を付けてください。</p>
	 <p>スカートとベルトを表同士が内側になるように重ねてください。 スカートよりベルトが●=1cmはみ出すように重ねて縫ってください。</p>
	<p>両端の縫い代を裏へ折ってください。</p>

	 <p>断面図 スカートの縫い代をベルトで包んでください。 ベルトを縫ってください。</p>
	<p>かぎホックを手縫いでつけてください。 表から見えなければいいです。</p> <p>手縫い糸を長く切ると縫うときに絡まりやすいので30cmくらいに切って使ってください。</p>
	 <p>青い部分の縫い目をほどいてください</p>
	 <p>ヒダを広げてください。 すその縫い代を2cm折ってください。 すそから1.5cmくらいの所をぬってください</p>



#### 必要な材料

生地、糸、コンシールファスナー 18~20cmのもの、接着芯、カギホック、接着芯、ファッションライナー

#### オススメの生地

ポリエステルツイルやギャバなどのポリエステル素材の布がシワになりやすく縫いやすいです。

綿ツイル 一般的な手芸店で手に入りやすく縫いやすい。ポリエステルに比べちょっとだけシワになりやすいよ。